



<ベトナム・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2022年07月28日

中国からベトナムへのグローバル企業の生産拠点移転

世界のグローバル企業が中国からアセアン諸国やインドに生産拠点を移転する傾向は、チャイナ・プラスワン(China+1)として始まり、その後、米中貿易摩擦の激化や新型コロナ禍拡大によって加速してきた。経済が高成長を続けているうえ、政治が安定しており、外国投資誘致・インフラ整備など、経済社会発展策を積極的に進める新興国ベトナムは、多くのグローバル企業が中国から生産をシフトする移転先の一つとなっている。ベトナムが最も理想的な移転先であるという評価も見られる。

2018年以前からベトナムに進出する企業はあったが、2018年以降はより多くの企業が生産工場を中国からベトナムにシフトしている。最近も米国アップル社がiPadの生産を、中国以外の国としては初めてベトナムでも開始すると報じた。以下は現在ベトナムに生産拠点をもつ代表的なグローバル企業である。

No.	企業名	国籍	業種	進出地域・工場数
1	サムスン(Samsung)	韓国	スマートフォン、家電品、ディスプレイ	ホーチミン市・バックニン省、タイグエン省等、6工場
2	フォックスコン(Foxconn)	台湾	PCハードウェア	バックザン省、6工場、
3	BYD	台湾	PCハードウェア	フート省
4	ゴエーテック(GoerTek)	中国	PCハードウェア	バクニン省、8工場、
5	ナイキ	米国	靴、衣服品	ベトナムに約200の委託工場
6	ヨコオ	日本	自動車・その部品、テレコム・キャリア	ハナム省
7	シャープ	日本	空気清浄機、液晶ディスプレイ、電子機器	ビンズオン省
8	京セラ	日本	コピー機、多機能プリンター	ハイフォン市、3工場
9	テクトロニックインダストリーズ(TTI)	香港	ホーム・オフィス製品	ビンズオン省
10	ブルックスランニング(Brooks Running)	米国	高級機器、衣類、スポーツシューズ	ホーチミン、ハノイ

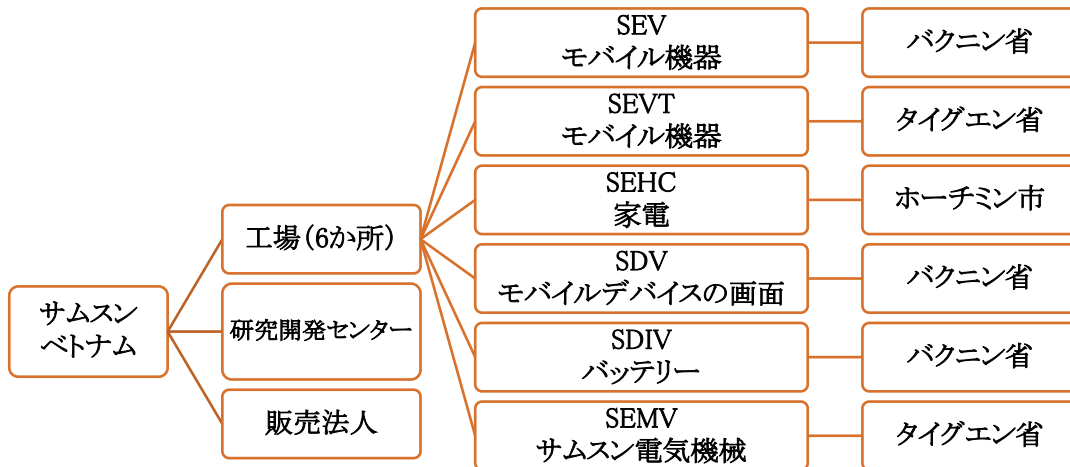
出所:CPVN作成



1. サムスン

サムソンは、2019 年中国にあった同社最後のスマートフォン工場を閉鎖した後、ベトナムのバクニン工場の折りたたみ式スマートフォン用パネルの生産を増強中である。

2008 年から現在まで、サムソンはベトナムに約 180 億米ドルを投資している。サムソンのベトナム現地法人「サムスンベトナム」の総従業員数は 11 万人であり、同社の 2021 年の収益は 742 億米ドルに達した。同年のサムスンベトナムの輸出額は 655 億米ドル、ベトナムからの総輸出額の約 20%を占めている。



出所:サムスン社資料をもとに CPVN 作成

2. アップルはバクザン省とフート省にて iPad を製造へ

2019~2020 年にかけて、アップルは主要なビジネスパートナーにアップル社製品の一部の生産を中国から中国以外の国へ移転するよう要請した。アップルの要請に応え、一部部品の生産活動をベトナムに移した企業には Luxshare と GoerTek があげられる。また最近、2021~2022 年にフォックスコンと BYD もベトナムで iPad 組立工場の建設を開始した。

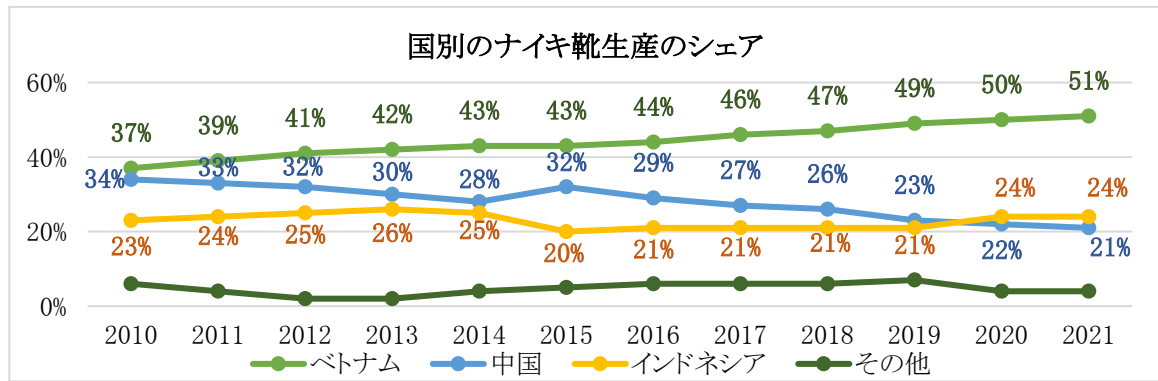
No.	プロジェクト名	投資家	場所	投資額	年間の生産能力 (製品数)	着工時期	稼働開始 予定時期
1	フカンテクノロジー 工場	フォックスコン・ シンガポール	クアンチャウ工 業団地	4.53 億米 ドル	1,600 万	2021 年の 第 1 四半期	2022 年の 第 1 四半期
2	BYD ベトナム電子 工場・フェーズ	BYD エレクトロ ニクス	フーハ工業団 地、 プート省	2.7 億米 ドル	5,430 万	2021 年 12 月	2022 年 6 月

出所:フート省とバクザン省の工業団地管理委員会、CPVN 作成



3. ナイキ(NIKE)

ナイキは1995年にベトナムでの生産を開始した。2021年度には、ナイキの靴製品のうち、ベトナム製が51%を占め、中国製のシェアは21%に低下した。同年度の衣料品生産においても、ベトナム、中国、カンボジアの契約工場はそれぞれ約30%、19%、12%を生産、現在はベトナムが主要生産地となっている。



出所:ナイキの年次報告、CPVN 編集

過去2年間の新型コロナ禍においても、ナイキによる生産シフトは継続したのである。

ベトナムは、商業的なポテンシャルの高い新興経済国として、より多くの外国人投資家を引き付けるため、人材育成、生産性向上、インフラ整備などの改善努力を続けていることが、このような現象を招いていると考えられる。

以上